

がんセンターだより

あいの こころ

Philosophy
Art
Humanity

11 月号
2024



表紙写真：食道胃外科の医師

- P.1 手術支援ロボット「ダビンチ」を用いた食道癌手術
- P.2 新任医師のご紹介
リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024とちぎ
- P.3-4 当センターでのリンパ浮腫の治療について
- P.5 「こやま文庫・こやまカフェ」10月から再開しました
- P.6 患者サロンのご案内



地方独立行政法人

栃木県立がんセンター

Tochigi Cancer Center



とちまるくん © 栃木県

手術支援ロボット「ダビンチ」を用いた食道癌手術

● 低侵襲食道癌手術

食道癌の手術療法は最近20年大きく進歩した分野のひとつです。食道癌手術は、従来、開胸操作と開腹操作が必要で大変負担の大きい手術でした。光学機器の進歩と内視鏡手術の発展によりカメラを用いて身体の中で行う鏡視下手術が確立されました。この術式では呼吸筋が温存されることで呼吸機能の低下が防止されます。そして高精密モニターで小範囲を拡大して行うことでより精緻な手術が可能となりました。この術式は低侵襲手術として普及し、現在日本では70%の食道手術が鏡視下で行われています。当センターでは2021年から全例この低侵襲手術にて食道癌手術を行っています。さらにアメリカintuitive社の提供する手術支援ロボット『ダビンチ』の登場により大きく進歩しました。



食道胃外科では食道癌手術にダビンチによるロボット支援手術を導入し40例を超えました。最近では食道切除の胸部操作と胃管作成の腹部操作ともダビンチを用いています。2025年1月からはダビンチ2台体制となり、食道および胃癌の大部分の手術をダビンチで行えるようになります。

● 食道癌手術にダビンチを用いるメリット

ダビンチは鉗子に関節があるため肋間による鉗子の動作制限がなく、狭い胸の中でも精緻な手術を行うことができます。特に反回神経周囲のリンパ節郭清に有効で反回神経に負担をかけることなく郭清を行うことができます。腹部操作では胃脾間膜の切離など従来の腹腔鏡ではやりにくい部位に有効で手術時間の短縮につながっています。



● 安定した手術成績

反回神経麻痺7.2%、肺炎6.3%、縫合不全6.3%と安定した低い合併症発生率で手術ができています。National Clinical Databaseによる日本での合併症発生は反回神経麻痺率13.3%、肺炎15.4%、縫合不全15.4%です。

	反回神経麻痺 (%)	縫合不全 (%)	肺炎 (%)	出典
栃木県立がんセンター	7.2	6.3	6.3	松下 2020
NCD	13.3	12.8	15.4	Takeuchi 2014
JCOG9907	17.3	14.6	12.4	Ando 2014

新任医師のご紹介

2024年10月に
新たに着任した医師をご紹介します。
どうぞよろしくお願いいたします。



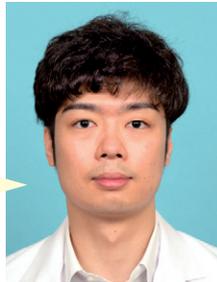
名前 三原 規奨 (みはら きしょう)
診療科・役職 肝胆膵外科 副科長
趣味 ゴジラ映画
出身大学 慶應義塾大学

よろしくお願いいたします。



名前 城田 晃佑 (しろた こうすけ)
診療科・役職 骨軟部腫瘍・整形外科 医師
趣味 ドライブ
出身大学 慶應義塾大学

若輩者ではありますが、精進して参ります。よろしくお願いいたします。



名前 山本 一貴 (やまもと かずき)
診療科・役職 婦人科 医師
趣味 サッカー
出身大学 東京慈恵会医科大学

3年ぶりに戻ってきました。一生懸命がんばりますのでよろしくお願いいたします。



リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024 とちぎ

2024年9月14日から15日に壬生町総合公園陸上競技場にて開催されました

今年で12回目の開催となったがん征圧・患者支援チャリティイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパンとちぎ」。当センターも後援施設として、毎年この活動に参加しています。

今年は、昨年より参加団体や来場者数が増加し、少しずつコロナ禍前の活気を取り戻してきました。



当センターの医師やスタッフも、講演など様々な企画に参加させていただきました。これからも都道府県がん診療連携拠点病院として、皆さんと共にがん征圧に携わっていきたく思います。

◆◆◆ 当センターでのリンパ浮腫の治療について ◆◆◆



形成外科 大西 文夫・長島 隼人
リンパ浮腫療法士・看護師 奥田奈々恵

リンパ浮腫は、完治困難であり、放置するとむくみの悪化により皮膚の変化や感染症のリスクが高まります。重症化すれば日常生活に支障をきたすことがあるため、早期の診断と適切な治療が重要です。

当センターのリンパ浮腫外来では、形成外科医とリンパ浮腫療法士が専門的な知識と技術を活かし、

患者さん一人ひとりに最適な治療を提供しています。また、必要に応じてリンパシンチグラフィや近赤外蛍光リンパ管造影などの専門的な画像検査を駆使し、症状や既往歴などと合わせて総合的な評価から診断、治療方針を決定します。治療には、大きく分けて保存的治療と外科的治療があります。保存的治療では、リンパ浮腫療法士により徒手的にリンパの流れを促すリンパドレナージ、包帯や弾性着衣を使用した圧迫療法、圧迫下での運動療法、適切なスキンケアや日常生活指導など、患者さんの背景を考慮した上で、日常生活の中で継続的に実践できるセルフケアをサポートします。リンパ浮腫は病院での治療だけでなく、日常生活でいかにセルフケアを行えるかが治療の成否を決めると言っても過言ではありません。そして、状態に応じて形成外科医によるリンパ管静脈吻合術（LVA）を提案することがあります。LVAとは、むくんでいる手足において顕微鏡下にリンパ管と静脈を直接つなげる手術で、リンパ液の流れを新たな経路に誘導し、症状の改善を図るものです。この手術は創が小さく局所麻酔下で行えるため体の負担が小さく、術後の回復も早いことが特徴です。手術後は、リンパ浮腫療法士による集中的な術後ケアを行い、むくみの再発予防や日常生活への早期復帰を目指します。

リンパ浮腫の治療は、一度の診療で完結するものではなく、継続的な治療が求められます。当センターでは、患者さんの生活の質（QOL）の向上を最優先に考えサポートいたします。リンパ浮腫に関する悩みを抱える方々に、専門的な治療とケアを通じて、少しでも快適な生活を取り戻すお手伝いをさせていただきます。



大西 文夫 医師

WITH リンパ浮腫（ウィズリンパ浮腫：リンパ浮腫とともに生きる）

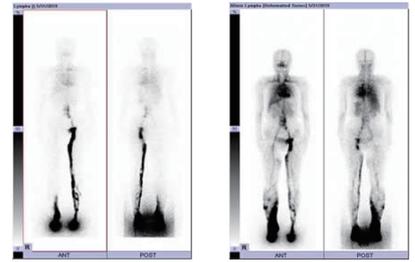
リンパ浮腫はうまくコントロールして付き合っていくことが必要です。そのために、治療を始めるのに早すぎるということはありません。また発症した場合はできるだけ速やかに浮腫の改善を図ることが、より良い**WITH リンパ浮腫**の生活を送る鍵となります。私たちは治療者としても、**WITH リンパ浮腫**の精神で治療にあたっています。リンパ浮腫を抱える方の希望となれるよう努力していきます。

一 浮腫の鑑別と診断

当センターでは、リンパシンチグラフィや近赤外蛍光リンパ管造影検査を行っています。

リンパシンチグラフィ

リンパに取り込まれた検査薬の流れを特殊なガンマカメラで撮影し、リンパ系の機能や流れ方を評価します。重症度や手術適応の有無、治療方針の決定に有用な検査です。

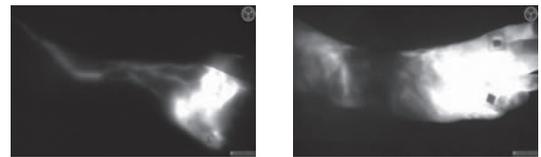


検査薬投与 15 分後

検査薬投与 60 分後

近赤外蛍光リンパ管造影検査

赤外線カメラで皮下のリンパの流れを蛍光色素（インドシアニングリーン：ICG）で造影することでリンパ管の走行やリンパ液の漏出部をリアルタイムに確認します。空間分解能が高く、LVAの手術前の確認に有用です。



下肢健常者

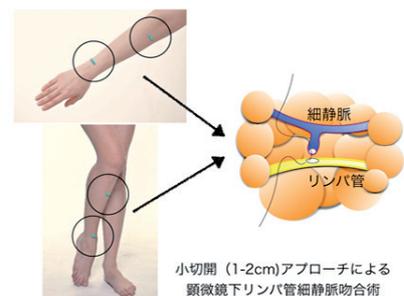
下肢リンパ浮腫

リンパ浮腫の治療 手術とケア

当センターの治療は、最新の知見とこれまでの経験を活かし、最良の方法を提供しています。リンパ管静脈吻合術の術後は、早期から集中的なリンパ浮腫ケアを組み合わせることが治療効果を高めます。

リンパ管静脈吻合術

リンパ管静脈吻合術は、流れの悪いリンパ管を見つけ、顕微鏡下に静脈と吻合することでリンパ液が心臓へ返るためのバイパスを作ります。当センターではこれを局所麻酔下で行っており、手術を受ける方はDVD鑑賞を行いながらリラックスして手術を受けることができるよう配慮しております。

小切開（1-2cm）アプローチによる
顕微鏡下リンパ管細静脈吻合術

術後のリンパ浮腫ケア

リンパ管静脈吻合術当日よりリンパ浮腫療法士が介入します。新たに作ったバイパスを有効に活かすための圧迫療法やリンパドレナージなどを行うことで、リンパの流れをさらに促進し、症状の改善を目指します。退院後も改善した状態が悪化しないように必要なセルフケアを指導し、同時にリンパ浮腫ケア外来でサポートしています。

リンパ浮腫外来は、他院からの紹介も受け付けております。
浮腫でお困りの方は、お気軽にご相談ください。

形成外科



リンパ浮腫外来



「こやま文庫・こやまカフェ」10月から再開しました

名誉所長の小山靖夫先生が患者さんに正しい知識と情報を提供するために作られた「こやま文庫」に併設して、院内で患者さんが気軽に話せて相談もできる場として始められた「こやまカフェ」。その遺志を継ぎ、コロナ禍でしばらく休室していた文庫とカフェを10月から再開しました。

患者さんは病気についての十分な情報や知識を得るのが必ずしも簡単ではなく、再発の恐怖や将来への不安などの悩みを抱え、誰にも相談できずに孤立していることが少なくありません。また“がん”と診断されてから次々に進んでいく検査や治療、病状の進行に“心”の準備がついて行けずに疎外感を感じている患者さんもいらっしゃいます。そんな時に医師やボランティアスタッフと話をすることで気持ちが楽になり、がんに向かい合うきっかけの「場」として「こやまカフェ」をご利用いただければ幸いです。一人で悩まずに治療のこと、再発や今後の療養生活に関する不安や悩みなど、何でもお話してください。以前のように患者さん同士で話し合ったり、情報を交換する環境も徐々に整えていきたいと思っています。

こやま文庫は患者さんが病気、特に“がん”に関する知識や理解を深めていただくための図書室で、インターネットからの検索も可能です。当センターの患者さんだけでなく、地域にお住いの皆様方の参加も大歓迎です。お気軽にお立ち寄りください。

- ◆ こやま文庫開室時間 月～金 13:30～15:30 (ボランティアスタッフ在中)
 - ◆ こやまカフェ開催日程 毎週火曜日 (第5週は休み) 開催時間 13:30～15:00
- 担当医師** 第1・3火曜日：須田啓一 第2・4火曜日：平林かおる



カフェの様子

※現在飲食の提供はおこなっておりません。



ぜひお気軽にお越しください。

がんセンターでは、病院内で活動していただく『病院ボランティア』の方を募集しています。寄贈図書の受入や整理、院内各所にある本棚の整理整頓や本の入れ替え。また、こやま文庫、こやまカフェ運営のお手伝いなどの活動です。月1回2時間程度でも、週1～2回でも皆様のご都合にあった活動で結構です。患者さんにとってこころ休まる環境づくりに参加してみませんか？

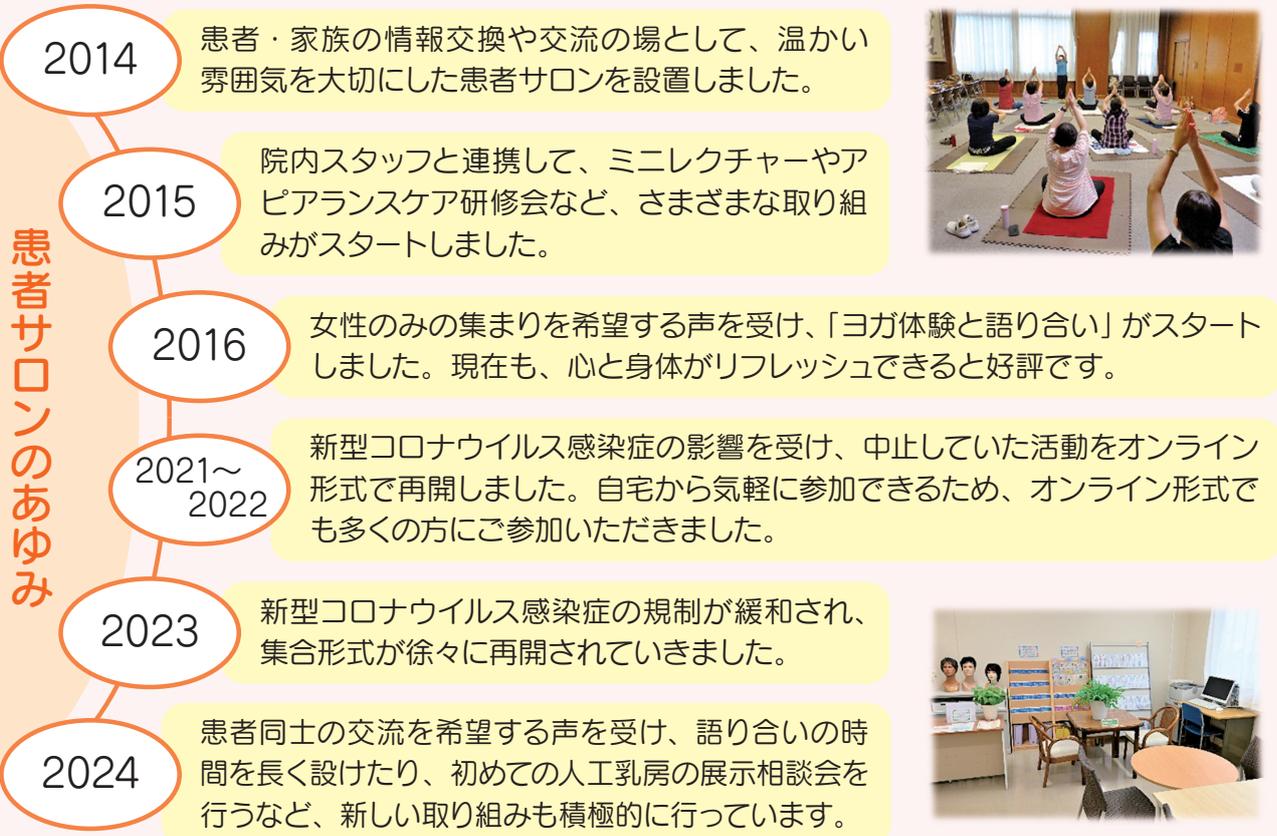
皆様の温かいお力とご協力をお待ちしております。



<https://www.tochigi-cc.jp/about/volunteer/index.html> (詳細はホームページをご参照ください。)

患者サロンは今年度で10周年を迎えました

患者サロンは、患者や家族同士が気軽に語り合い、交流できる場として2014年に開設され、今年度おかげさまで10周年を迎えました。これまで、ミニレクチャーやリラクゼーションと語り合い、アピランスケア研修会などを開催し、多くの皆様にご参加いただきました。



今後もさまざまな取り組みを行い、患者や家族同士が気軽に交流できる場を設けていきたいと思っております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

10周年記念講演会のお知らせ

患者サロン開設10周年を記念して、講演会を開催いたします。講演会の後には、患者さん同士が語り合い、情報交換できるよう交流会を行います。

日時：2024年12月21日(土) 13:00～15:30(受付12:30～)

場所：がんセンター本館3階講堂

対象：当センターのがん患者さんご家族

内容：○講演(当センターの乳腺外科医による講演、乳がん体験者による体験談)

○患者さん同士の語り合い(希望者)

詳しくは、こちらをご確認ください→

<お問い合わせ先> がん相談支援センター

TEL:028-658-6484(直通) 8:30～17:00

感染対策のため、当センターの患者さんご家族に限らせていただいております。ご了承のほどよろしくお願いいたします。



ぜひご参加を
お待ちしております



当センターへのお問い合わせ (代表) ☎ 028-658-5151

ご予約は以下の窓口までご連絡ください

予約センターのご案内

予約専用電話

☎ 028-658-5012

予約受付時間

🕒 平日 8:30 - 16:30

予約時にお聞きすること

① 診察券番号(受診歴がある方のみ) ② 受診科と医師名 ③ ご希望の日時

※当センターは、初診、再診ともに予約制となっています。予約センターにお電話のうえ、受診日をご予約ください。また、予約枠に制限があり、ご希望に添えない場合もあります。予めご了承ください。

～当日、患者さんにお持ちいただくもの～

- 保険証またはマイナンバーカード、各種医療証
- 診療情報提供書(紹介状)

- 各種検査結果、画像データ(お持ちの方のみ)
- お薬手帳(お持ちの方のみ)
- 当センターの診察券(お持ちの方のみ)

● 病診連携に関するお問い合わせ

地域連携チーム

☎ 028-611-5503

平日 ⑧8:30 から 17:15

● がんに関するご相談

患者総合支援センター・
がん相談支援センター

☎ 028-658-6484

平日 ⑧8:30 から 17:00

● がんの遺伝カウンセリングや、ゲノム医療についての予約やお問い合わせ

ゲノムセンター

☎ 028-611-5480

平日 ⑧8:30 から 17:00

セカンドオピニオン外来のご案内

■ 平日午後

	月	火	水	木	金
主に胆・膵			菱沼 正一		
主に肝			尾澤 巖		尾澤 巖
主に大腸				藤田 伸	
主に食道・胃				松下 尚之	
				藤田 剛	
				林 雅人 (※週毎の交代制)	
頭頸部腫瘍・耳鼻咽喉科				横島 一彦	横島 一彦
骨軟部腫瘍・整形外科	菊田 一貴				

予約センター | ☎ 028-658-5012(直通) 受付時間 平日 ⑧8:30 から 16:30

当センターは
紹介受診重点医療機関
に指定されています

他の医療機関からの診療情報提供書(紹介状)を持たずに外来受診する場合「特別の料金(選定療養費)」がかかります。

初診 7,700円

※緊急、その他やむを得ない事情がある場合には、「特別の料金」を徴収しないことがあります。

交通のご案内

電車・バス

- JR宇都宮線「宇都宮駅」より
⇒西口から関東バス「江曾島行(11番のりば)」に乗車。「がんセンター前」で下車。横断歩道を渡る。徒歩1分。(乗車時間約25分)
- 東武宇都宮線「江曾島駅」より
⇒東口から関東バス「JR宇都宮駅行」に乗車。「がんセンター前」で下車。(乗車時間約5分)

自動車

- 東北自動車道「鹿沼I.C.」より
⇒東北自動車道「鹿沼I.C.」より宇都宮方面へ。「滝谷町」交差点を右折南進し、JR陸橋を超え3つ目の信号「八千代1丁目」を左折。(約9.4km)
⇒東北自動車道「鹿沼I.C.」より宇都宮方面へ。「宮環鶴田陸橋」を右折。「下砥上町」アンダーに入ってすぐ江曾島方向へ左折し7つ目の信号を左折。(約8.2km)



病院の北側に
駐車場が
ございます。



あいの
Philosophy
and
Humanity
こころ vol.35

11月号
令和6年(2024)
11月25日発行

発行 地方独立行政法人栃木県立がんセンター 広報広聴センター
〒320-0834 栃木県宇都宮市陽南4-9-13
TEL. 028-658-5151(代) FAX. 028-658-5669



がんセンターの情報は 栃木県 がん 検索 URL <https://www.tochigi-cc.jp>